診療科紹介

- 診療科 医科部門
- 診療科 歯科部門
- 中央診療施設等
- 院内措置施設等
- 別府病院

小児医療センター

小児医療に特化した医療スタッフと内科系・外科系の小児病棟を集約的に配置し、小児医療の質と患者さんとご家族の生活の質（QOL）の向上のみならず、ハード・ソフト両面にわたる医療資源の効率的運用を目的として、2006年3月に北棟6階に開設されました。

小児医療センター外来

［得意分野］

小児科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科を中心に、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科、精神科神経科、救命救急センター、集中治療部などの関連各科が診療科の垣根を越えて、小児への集学的医療を提供しています。九州沖縄地区唯一の小児がん拠点病院として、小児がんに対する新規治療法の導入や治験への参加も積極的に行っています。また、2020年5月に小児心臓移植実施医療機関に認定されています。

［診療体制］

病棟は北棟6階で、小児科36床、小児外科・成育外科・小腸移植外科16床、共通病床22床の計74床です。

外来は北棟5階で、小児科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科の専門医が担当します。移植後フォローアップ外来、トランジショナルケア外来、在宅自己注射指導外来、小児漢方外来および小児AYA世代がんフォローアップ外来を設置しています。また、小児救命救急センターに小児科医、小児外科医が常駐し、小児の急患に24時間体制で対応しています。

［診療方針］

子どもたちにとってもっとも適切な医療を提供できるように、多職種による医療チームの連携と和を大切にしています。

プレイルーム、中庭の設置、院内学級の併設、小児看護専門看護師、病棟保育士や子ども療養支援士の配置など、患者さんとそのご家族のQOLの向上と心理面のサポートに努めています。また季節ごとにボランティアを中心に、年中行事も開催しています（新型コロナウイルス感染症のため、現在休止中）。

［対象疾患］

小児の疾患すべて。

［主な検査、治療］

各科横断的な治療を提供しています。造血幹細胞移植、心臓カテーテル治療、子どものこころと発達診療、脳機能検査、内分泌負荷試験、小児臓器移植（肝臓・小腸・心臓）、小児の低侵襲手術（腹腔鏡・胸腔鏡手術）、小児がんに対する集学的治療、短腸症候群や腸管ぜん動不全の治療、全身麻酔下での一括歯科治療など、専門性の高い医学・医療を提供しています。

［学会施設認定］

関連各科（小児科、小児外科・成育外科・小腸移植外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器・前立腺・腎臓・副腎外科、精神科神経科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科）の項、参照

ハートセンター

ハートセンターは、心臓カテーテル検査室、心臓超音波検査室、冠動脈疾患治療部（CCU）、手術室、集中治療部（ICU）、内科・外科病棟を機能的に集約した心臓血管専門施設です。九州大学病院は九州唯一の心臓移植実施施設であり、内科・外科が連携してあらゆる重症心疾患の治療にあたっています。また、小児に特化した医療スタッフと内科系・外科系の小児病棟を集約的に配置し医療の向上、ならびに患者さん・ご家族の生活の質（QOL）の向上を目指します。

ハートセンター　正面

［得意分野］

■内科部門

循環器内科、血液・腫瘍・心血管内科、小児科の3科が、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈、心不全、大動脈や末梢動脈疾患、弁膜症などの構造的心疾患、肺高血圧症や先天性心疾患といった、広範囲の循環器疾患に対して、高度で専門的な診療を行っています。主な検査・治療として、年間約15,000件の心エコー・血管エコー検査のほか、約1,500件の心臓カテーテル検査、約400件の冠動脈および末梢血管インターベンション、約400件の不整脈に対するカテーテルアブレーションなどの実績を誇っています。外科部門や多職種で協働して弁膜症に対するカテーテル治療や重症心不全に対する補助人工心臓や心臓移植治療、肺高血圧症に対するカテーテルや手術療法、日本で屈指の心臓リハビリテーション治療など、あらゆる循環器疾患に対して先進的かつ高度な治療・管理を実践しており、九州にとどまらずわが国における循環器疾患の「Center of Center」を目指しています。

■外科部門

年間約700例の手術（うち心臓・大血管手術約500例以上：24時間急患対応）。冠動脈バイパス手術や弁膜症手術（経カテーテル的大動脈弁置換術を含む）、大動脈瘤に対する手術（人工血管置換術やステントグラフト手術）、未熟児を含めた新生児から成人期にわたる全ての手術に対応しています。九州唯一の心臓移植実施施設として成人および小児の重症心不全に対する補助人工心臓植込み手術から心臓移植までの全ての治療過程を行っています。低侵襲手術（小切開手術やロボット手術）にも積極的に取り組んでいます。

［診療体制］

スタッフは医師60名、看護師50名です。病床数は62床で、冠動脈疾患治療部の10床と合わせると72床です。心臓カテーテル検査室、心エコー検査室、手術室、ICU/CCU、外来が同じフロアに配置され、迅速な診断、治療の提供が可能です。ハートセンターは内科部門、外科部門それぞれホットラインを備え、24時間対応を行っています。

ホットライン：

内科（循環器内科） 外来予約関連：080-3213-3068（外来主任直通）、急患受入相談：092-642-5368、5877から内線2200（病棟医長・当直医直通）

内科（血液・腫瘍・心血管内科） 急患依頼 080-3213-2964、夜勤帯は092-642-5368、5877から内線2200

小児科：外来 092-642-5425、病棟 092-642-5427

外科 ①080-3213-2833 ②病棟 092-642-5563、5564から内線2295。

［診療方針］

患者さんの視点に立つことを一番に考え、本人とご家族に最善の医療を提供することを目指します。重症心不全、虚血性心疾患、弁膜症疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、不整脈などの循環器疾患に対する先端医療を実践し、肺高血圧症や複雑な合併症のある難治性循環器疾患などの九州の拠点病院としての役割を果たすべく、努力を続けています。

［対象疾患］

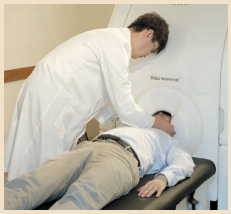
虚血性心疾患、弁膜症疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、不整脈、心不全、心筋症、肺高血圧症

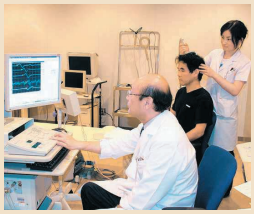
［主な治療］

循環器内科、冠動脈疾患治療部、血液・腫瘍・心血管内科、小児科、心臓血管外科の項、参照

ブレインセンター

脳神経内科、精神科神経科、心療内科、検査部が協力して脳・神経疾患の総合的な診断を行っています。認知症や難病の相談や環境整備の拠点としての役割も果たしています。


脳磁図計


誘発電位

[得意分野]
認知機能障害、運動障害、感覚障害をきたす疾患の診断と機能評価に必要な、さまざまな検査を行います。認知症や脳卒中、神経難病の診断と、診断後の治療方針の決定や療養環境の整備を行います。

[診療体制]
日本神経学会認定神経内科専門医17名、日本臨床神経生理学会脳波・筋電図分野認定医1名、日本認知症学会専門医2名、日本てんかん学会専門医2名が専門的な検査・診療にあたっています。臨床心理士が高次脳機能検査や難病心理相談にあたっています。認知症疾患医療センターでの認知症専門外来を行っています。難病相談支援センターでは難病患者さんや小児慢性特定疾病患児とご家族の相談支援、難病ネットワークの拠点病院としての療養環境整備に取り組んでいます。未診断・未指定難病相談支援センターでは、難病を疑われながら診断がついていない患者さんやご家族などのための相談窓口として早期に正しい診断が受けられるよう支援しています。また、2023年1月より、てんかん支援拠点病院の相談窓口も設置しています。

[診療方針]
専門知識をもつ医師が診断や機能評価のために必要な検査を選択し、患者さんの負担が少なくなるよう心がけています。認知症や難病の診断・治療はさまざまな分野の医師が話し合いながら行います。療養方針は、医師だけでなく看護・行政側と相談して、よりよい療養環境となるようにしています。

[対象疾患]
神経変性疾患(パーキンソン病、アルツハイマー病、レヴィー小体病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など)、免疫性神経疾患(多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー、重症筋無力症、筋炎など)、脳血管障害、末梢神経障害、自律神経障害、てんかん、その他(筋ジストロフィー、脊椎疾患、うつ病、心身症など)

[主な検査]
神経伝導検査、針筋電図検査、誘発電位検査(体性感覚、視覚)、磁気刺激による運動誘発電位検査、脳磁図検査、脳波検査、頸部血管エコー検査、定量的発汗機能検査、ヘッドアップティルト検査、神経心理検査(認知機能、高次脳機能、うつ病の検査など)、電流知覚閾値検査

[学会施設認定]
関連各科(脳神経内科、精神科神経科、心療内科、検査部)の項、参照

小児救命救急センター

小児救命救急センターは院内各科と連携し、重篤な小児の救急患者さんの診療を24時間体制で行っています。

重篤な小児患者さんの診察の様子

[得意分野]
当センターは、事故やけいれんなどで、直接救急搬送されるお子さんはもちろん、肺炎などで当初は他の病院で診療を受けていたものの状態が快方に向かわず、本院へ転院搬送されるお子さんにも対応しています。福岡市周辺はもちろん、九州北部(福岡・佐賀・長崎・大分・熊本)や山口地域などから転院される方もいます。病気や事故にかかわらず、すべての重症な小児の救急患者さんに対応します。
このような重症のお子さんが入院する小児集中治療室(PICU)では、小児のさまざまな体格に合ったチューブ、カテーテル、輸液ポンプなどを装備し、小児特有の病態に合った集学的な集中治療を行います。

[診療体制]
8名の小児担当スタッフ(小児科医7名、小児外科医1名)が、救命救急センター・集中治療部の成人担当スタッフと連携して診療を行っています。

[診療方針]
当センターでは、専門性をもった他の診療科の医師や看護スタッフ、臨床工学技士などが綿密に連携・協力し、北部九州地域の小児救急医療における「最後の砦」として、適切な治療を適切なタイミングで行うことができるよう、努めています。突然の入院・転院となった子どもたちのストレスができるだけ少なく、また、ご家族、医療者も安心できる小児救急医療を提供しています。また、状態が安定したら、本院の小児病棟や地域の病院で引き続き治療が継続できるよう、院内外の施設と連携しています。

[対象疾患]
集中治療が必要となる小児救急疾患
■内因性疾患:呼吸器疾患(重症呼吸不全、急性肺炎、急性気管支炎)、神経疾患(急性脳炎・脳症、けいれん重積)、循環器疾患(劇症型心筋炎、先天性心疾患)、重症肝不全、急性腎不全など
■外因性疾患:重症外傷、頭部外傷、多発外傷、溺水、熱傷、窒息、中毒など
■心肺停止・虐待

[主な治療法]
人工呼吸、緊急血液透析、血しょう交換、脳低温療法、体外補助循環(ECMO)など、専門部署と連携し、生命に直結するような病態に対し、全身管理を行っています。

周術期口腔ケアセンター

円滑な周術期の治療・管理を目的として、全身麻酔で手術を受ける患者さんや化学療法、放射線治療を受ける患者さんに対し、治療開始前から専門的な口腔ケアを行い、口腔内の細菌や疾患が原因となる合併症を予防します。

診療風景

[得意分野]
医科の手術や治療の前後に口腔診査を行い、口腔からの細菌感染の予防や口腔機能の管理、さらには治療の妨げになるような口腔疾患の治療を行います。また、疾患のためブラッシングやうがいをすることが難しい患者さんの口腔ケアサポートも行います。
1)口腔内感染源の除去:専門スタッフ(歯科医師および歯科衛生士)による徹底的な歯垢・歯石除去、口腔粘膜の清掃、ブラッシング・保湿・うがい指導など
2)薬の副作用などによる口腔粘膜炎の治療・ケア
3)動揺歯の固定:全身麻酔のチューブ挿入時などに起こる歯の脱落を予防
4)一般歯科治療、口腔外科治療

[診療方針]
周術期とは、入院・手術・回復からなる治療前後を含めた一連の期間を意味します。この期間に口腔内が不潔だと、術後の肺炎や創部感染など多くの合併症が起こります。また、心臓血管外科手術時や造血幹細胞移植においては、歯周病や進行したう蝕は重篤な感染症のリスクになります。周術期口腔ケアセンターでは、このような合併症の予防を目的として、医科各科や周術期支援センターと連携して、手術、化学療法や放射線治療、移植や心臓外科手術などの患者さんに対して外来・入院期間に感染源除去を目的とした口腔ケアや歯科治療を、高齢者歯科・全身管理歯科、口腔総合診療科を中心に歯科部門の全科が行います。退院後はかかりつけ歯科医、あるいはかかりつけ歯科医がない場合は地域の歯科医院や病院を紹介し、連携を取ります。

[対象疾患]
歯周病、う蝕、放射線・化学療法による口腔粘膜障害、口腔乾燥、義歯および冠の不適合など口腔内の疾患、摂食・嚥下障害、口腔衛生状態が不良で誤嚥性肺炎のリスクが高い患者

[主な検査]
■口腔衛生状態診査:衛生状態を診査し、口腔清掃指導を行います。
■X線検査:歯の状態を調べ、医科治療を円滑に行えるようにします。
■歯周組織検査:歯の動揺、歯周ポケットの深さを診査します。
■細菌検査:口腔内細菌を検査して、早期対応を可能にします。
■義歯の診査:義歯の状態を評価し、必要な場合は修理などを行います。
■口腔機能検査:咀しゃく機能、咬合力、唾液量、舌や口唇の運動機能、嚥下機能などの評価を行います。

[主な治療法]
■口腔内衛生指導(ブラッシング、粘膜の清掃、うがい、保湿)
■歯周基本治療(歯石除去)
■歯科治療(う蝕治療や抜歯などによる感染源の除去)
■動揺歯の固定・保護(マウスプロテクタの製作)
■口腔ケア(歯、舌、粘膜)と口腔リハビリテーション
■退院後支援(地域の歯科医院や病院を紹介します)

[学会施設認定]
日本口腔ケア学会、日本口腔衛生学会

再生歯科・インプラントセンター

歯科インプラント治療や歯周組織再生などの診療を行い、顎口腔外科、顔面口腔外科、義歯補綴科、咬合補綴科、歯科麻酔科、口腔画像診断科などの各領域の専門家が連携しながら、チームアプローチを行っています。

インプラントの咬合調整

[得意分野]
う蝕、歯周病、外傷などによる歯の欠損、重度の歯槽骨吸収や歯周病症例を対象に、歯科インプラント治療、骨移植や上顎洞底挙上術などのインプラント前外科処置、といったさまざまな最新治療に取り組んでいます。

[診療体制]
日本口腔インプラント学会、日本補綴歯科学会、日本口腔外科学会の指導医・専門医を中心に、他の歯科領域の専門家とも連携し、インプラントや再生治療などの診療にあたっています。

[診療方針]
患者さんの口腔内状況に合わせて十分なインフォームドコンセントを行い、最適な治療法を選択しています。それぞれの患者さんに対して、顎口腔外科、顔面口腔外科、義歯補綴科、咬合補綴科、歯科麻酔科、口腔画像診断科の専門家が十分にディスカッションを行い、チームアプローチで診療に取り組んでいます。

[対象疾患]
う蝕、歯周病、外傷、腫瘍切除による歯の欠損喪失症例、重度の歯槽骨吸収や歯周病症例などを対象に治療を行っています。

[主な検査]
X線およびCT検査

[主な治療]
■歯の欠損:歯科インプラント埋入術、コンピュータによるガイドサージェリを用いたインプラント手術、インプラント上部構造(冠・義歯)の作製など
■歯槽骨吸収:骨移植、骨再生誘導法(GBR)、サイナスリフトやソケットリフトによる上顎洞底挙上術、スプリットクレストや仮骨延長による骨増生術など
■インプラント周囲炎:洗浄、薬物療法、外科的対応による感染源の除去、罹患したインプラントの撤去術やその後の骨造成術、再埋入など

[学会施設認定]
日本口腔インプラント学会、日本補綴歯科学会、日本口腔外科学会

デンタル・マキシロフェイシャルセンター

口唇・口蓋裂をはじめとするさまざまな口腔先天異常の一貫治療、顎変形症に対する顎矯正治療、障がいがある成人の歯科治療を行うための専門歯科施設です。これらの疾患にかかわる先進的な治療法の開発も行っています。

口唇口蓋裂患者さんの診察

[得意分野]

口唇・口蓋裂をはじめとする多様な口腔先天異常に対しては、出生前相談、哺乳床または術前顎矯正装置装着、口唇形成術(一次)、口蓋形成術(一次)、言語治療、矯正治療、顎裂部骨移植術、口唇・外鼻形成術(二次)、口蓋形成術(二次)など、成長時期に応じて必要とされる多角的な治療を一定のプロトコルに沿って組み合わせて実施する、一貫治療を行っています。特定機能病院の特性を活かして、他部位に合併する各種の先天異常をもつ症例にも対応しています。

顎変形症に対しては矯正歯科治療と顎矯正手術により、咬合をはじめとして、顎運動、発音、睡眠など口腔諸機能の回復を図っています。他施設では対応が難しい骨延長術や顎関節の手術にも対応しています。

障がいがある成人の歯科治療は、外来または入院下の鎮静や全身麻酔下の治療を行っています。

[診療方針]

顔面口腔外科、顎口腔外科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科が中心となって連携・協力し、系統的に診療する、チーム医療を原則としています。患者さんの状態を診査し、種々の検査の後に担当各科の専門家がカンファレンスで十分に協議し、綿密な治療計画を作成します。治療計画にはCTなどから作製した3次元画像および実体モデルによる手術シミュレーションを取り入れています。また、必要な症例には先端医工学診療部と連携して手術ナビゲーションを行っています。

必要に応じて小児科、耳鼻咽喉科、形成外科などの医科部門関係各科と円滑に連携を行いながら治療を進めています。

治療方針策定後、十分なインフォームドコンセントのもとに、最適と考えられる治療をチームで実施します。

[対象疾患]

1. 口唇・口蓋裂をはじめとする口腔顎顔面先天異常
2. 顎変形症
3. 障がいがある成人の歯科疾患

[主な治療法]

1. 術前顎矯正装置装着、口唇形成術(一次)、口蓋形成術(一次)、言語治療、矯正歯科治療、顎裂部骨移植術、口唇・外鼻形成術(二次)、口蓋形成術(二次)など
2. 術前・術後矯正歯科治療、下顎骨形成術、上顎骨形成術、骨延長術、顎関節形成術
3. 全身麻酔下あるいは鎮静化でのう触処置など

ECMOセンター

ECMO(エクモ)とはExtraCorporeal Membrane Oxygenationの略で、心臓機能と肺機能を代替する体外循環装置です。ECMOセンターでは、ECMO治療に特化した内科系・外科系スタッフを集約的に配置し、医療の質の向上のみならず、ハード・ソフト両面にわたる医療資源の効率的運用を目的として、2017年6月に開設されました。

ECMO治療

[得意分野]

成人・小児を問わず、重症循環不全・重症呼吸不全を対象とし、疾患に応じて、心臓と肺の両方を補助することができるV-A ECMO、肺の補助のみを行うV-V ECMOを使用しています。診療科の垣根を越えて、さまざまな疾患に対応しています。

■成人ECMO治療

成人ECMOの適応疾患は多岐にわたり、重症循環不全(急性心筋梗塞、劇症型心筋炎、心臓手術術後など)、重症呼吸不全(肺炎、ARDS)、さまざまな手術での術中補助などでECMOを使用しています。成人ECMO症例は年間30−40例と年々増加傾向にあります。

■小児ECMO治療

体格や年齢(月齢)を問わず、心臓手術術後、先天性横隔膜ヘルニア、劇症型心筋炎、重症呼吸不全(新生児遷延性肺高血圧)などでECMOを使用しています。小児ECMO症例数は年々増加し、年間の症例数は10例前後です。小児ECMO治療を集学的に行える施設は、九州では本院以外になく、佐賀県、熊本県など他県からも患者さんを受け入れています。

■より高度な機械的循環補助・呼吸補助

ECMO治療は、末梢ECMO(大腿部や頸部から)を行うことが一般的ですが、循環・呼吸の状態や他臓器(肝臓、腎臓)の状態により必要に応じてセントラルECMO(開胸下)へ移行することで、より高い救命率を得ています。また、近年は補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)を組み合わせることで、より効果的な治療を行うことができるようになりました。ECMO治療は、通常1−2週間での回復・ECMO離脱を目標にしていますが、本院は九州で唯一の心臓移植認定施設であるため、回復が困難な心不全の患者さんに対しては、体外式または植込型の補助人工心臓を用いて心臓移植を目指す長期管理へ移行することも可能です。

[診療体制]

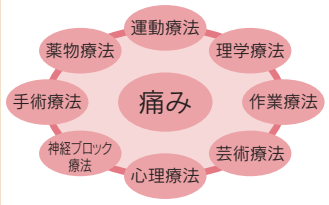
ECMOセンターのメンバーは、心臓血管外科、循環器内科、小児科、小児外科などの専門診療科医師と集中治療部医師に加え、ICU・CCU看護師、臨床工学技士、薬剤師などのメディカルプロフェッショナルスタッフによって構成されています。ECMO治療は、循環・呼吸に対する集中治療を必要とするため、ICU・CCUで実施しています。ECMOセンターの開設により、より迅速な診断と治療開始をシームレスに提供できるようになりました。ECMO治療を行っている患者さんに対しては、ECMOセンタースタッフが日夜担当科医師などと治療方針を話し合いながら、適切な治療を提供しています。

[診療方針]

患者さんの視点に立つことを一番に考え、本人とご家族に、最善の医療を提供することを目指しています。重症循環不全・呼吸不全に対するECMO治療を実践し、九州での拠点病院としての役割を果たすべく、日々診療を行っています。

集学的痛みセンター

痛みは日本国民の愁訴で最も多いものです。痛みに伴う機能障害をこじらせると治療が困難になるため、厚生労働省は集学的な治療を推進しており、再び生きる喜びを実感できるようにサポートする医療を目指して、本院に集学的痛みセンターが設立されました。



痛みに対する集学的診療体制

[得意分野]
痛みをきたすさまざまな疾患に対する生物心理社会的観点での多面的な病態評価とそれにもとづく集学的治療を行っています。本院各科の専門家と協力し、全国各地から紹介された慢性疼痛難治例に対して心身医療を行い、QOLを向上させた治療経験の蓄積があります。

[診療体制]
医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・公認心理師などの多職種で構成され、各専門分野を研鑽しながら定期的な集学的カンファレンスを行い、個々の患者さんに対して複数の担当者が情報交換し、多面的観点からオーダーメイドの医療を実践しています。

[診療方針]
社会生活においては、現在の環境や身体状況だけでなく、個人の独特な考え方(認知)・幼少期からの生育歴に影響された感情のもち方や行動パターンにより、痛みに対する対処が決定し、痛みが軽減するか、悪化するかが決まってきます。これらの観点で医学的病態を分析し対策を練り、患者さんに寄り添った診療を行っています。

[対象疾患]
多くの病気やストレスを契機に発症し、適切な医療を受けても3か月以上続く痛みや、原因がはっきりしない痛みに苦しんでいる方

[主な検査]
各種自記式質問紙、心理検査、活動量計、可動域制限に関する評価、サーモグラフィ、自律神経機能検査、定量的感覚検査(QST)

[主な治療]
病態とそのステージに沿った薬物療法、運動療法、理学療法、作業療法、各種神経ブロック(高周波熱凝固法、パルス高周波法など)、脊髄刺激療法、経皮的髄核摘出術、神経剥離術(スプリングコイルカテーテル)、自律訓練法、心理カウンセリング、認知行動療法、マインドフルネス、アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)、芸術療法、箱庭療法、精神療法など。

[学会施設認定]
日本運動器疼痛学会(いきいきリハビリノート使用施設)

脳卒中センター

腎・高血圧・脳血管内科、脳神経内科、脳神経外科、救命救急センターなどが協力して脳卒中の専門診療を行っています。通常の脳卒中だけでなく、治療困難な脳卒中症例を各地から受け入れ、福岡県だけでなく九州・山口の拠点病院としての役割を果たしています。

病棟回診

カテーテル治療

[得意分野]
脳梗塞に対する血栓溶解療法や血栓回収療法、また脳出血やくも膜下出血に対する手術治療など、さまざまな脳卒中疾患に対する急性期治療を行っています。また、大学病院の充実した設備・人員を活かし、巨大動脈瘤や複雑な脳血管奇形、また多疾患合併症例などの治療難易度の高い脳卒中に対しても近隣の病院から患者さんを多数受け入れ、最新の治療を行っています。

[診療体制]
救命救急センター、内科、外科、放射線科などそれぞれの分野の専門家が協力して、脳卒中疾患の迅速な診断・治療を行っています。カテーテル検査室や手術室も24時間365日対応しています。多数の脳卒中専門医・指導医が在籍し、さらに複数の脳卒中の外科認定・指導医、脳神経血管内治療専門医・指導医が最先端の治療を行います。

[診療方針]
複数の分野の専門家が集まって必要な検査を迅速に行い、患者さんの状態を正確に診断して、適切かつ安全な治療方法を選択して迅速に治療しています。

[対象疾患]
脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中疾患。また通常の治療が困難な巨大脳動脈瘤や血管奇形、そして頸動脈狭窄症、頭蓋内動脈狭窄症など。

[主な検査]
CT(コンピューター断層撮影検査)、MRI(磁気共鳴画像検査)、超音波検査、カテーテル検査、SPECT(脳血流検査)、脳波検査など。

[主な治療]
■血栓溶解療法、急性期抗血栓療法、抗脳浮腫療法、また呼吸循環動態や栄養などの全身管理など。
■カテーテル治療(脳梗塞に対する血栓回収療法、血管狭窄病変に対する血管形成術・ステント留置術、くも膜下出血に対する動脈瘤塞栓術、血管奇形に対する塞栓術など)
■手術治療(脳動脈瘤に対する開頭クリッピング術、高流量・低流量バイパス併用手術、脳出血に対する開頭・内視鏡血腫除去術、頸動脈内膜剥離術など)
■脳卒中急性期リハビリテーション
■併存疾患の管理、再発予防(抗血栓薬、全身リスク管理、手術治療など)

[学会施設認定]
日本脳卒中学会認定研修教育病院、一次脳卒中センター　コア施設、脳神経外科専門研修プログラム基幹施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設

糖尿病診療支援センター

糖尿病専門医、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの糖尿病診療のエキスパートが院内の各診療科と連携し、先進的かつ集学的な糖尿病診療を提供して、九州大学病院における高度先進医療を支援しています。

メンバー集合写真

糖尿病教室ノート

インスリンポンプと持続血糖測定器

[得意分野]

入院診療では多職種連携による糖尿病教育入院、持続血糖モニタリングやインスリンポンプなど先進的な医療機器を用いた血糖管理のほか、眼科、腎臓内科、循環器内科、脳血管内科、血管外科、整形外科などの専門診療科との緊密な連携により、糖尿病の全身合併症の精査・治療を行っています。外来診療では腎症の悪化を防ぐため糖尿病透析予防指導外来に加えて、足のトラブルを早期に発見し、重症化を予防するための糖尿病フットケア外来も設置し、多職種連携による糖尿病患者の療養支援を推進しています。また、しばしば治療に難渋する高度肥満症合併糖尿病については、内分泌代謝・糖尿病内科による薬物療法、心療内科による認知行動療法、減量・代謝改善手術などチーム医療による集学的治療を行っています。小児科は福岡市の学校腎臓・糖尿検診、生活習慣病健診の精査医療機関であり、糖尿病専門医、内分泌代謝科（小児科）専門医、臨床遺伝専門医が診療しています。小児に対する持続血糖モニタリング、インスリンポンプの導入、カーボカウントを含む食事指導も可能です。また、心療内科医による心理カウンセリングや歯周病科医による歯科治療や口腔ケアも行っています。

[診療体制]

九州大学病院に在籍する30人を超える糖尿病専門医をはじめ、歯科医師、糖尿病療養指導士の資格をもつ看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などの多職種の医療スタッフにより構成され、分野横断的な診療、集学的治療や高度先進医療を推進しています。

[診療方針]

手術や高度先進医療を受ける糖尿病患者の血糖管理や、全身合併症の管理など診療科横断的な診療を支援しています。新しい糖尿病治療薬や最新のテクノロジーを用いた診療機器による糖尿病治療法の開発・推進にも取り組んでいます。

[対象疾患]

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、薬剤性糖尿病、内分泌疾患に伴う糖尿病、膵外分泌疾患や肝疾患に伴う糖尿病、移植後糖尿病、遺伝子異常に伴う糖尿病

[主な検査]

持続血糖モニタリング、インスリン分泌能検査、血中ケトン迅速測定、神経伝導速度検査、精密振動覚閾値検査、自律神経機能検査、眼底写真検査、網膜電位図検査（ERG）、動脈硬化検査（PWV、CAVI、ABI）、血管内皮機能検査（Endo-PAT）、精密体組成測定、内臓脂肪面積測定、肝硬度・脂肪量測定、骨密度・骨質測定、遺伝子検査、口腔内診査、歯周病検査（歯周組織検査やX線写真撮影）など。

[主な治療]

食事療法、運動療法、薬物療法（経口薬、インスリンポンプ療法を含む注射療法）、心療内科医による心理カウンセリング、歯周病科医による口腔ケア、糖尿病透析予防指導外来、糖尿病フットケア外来など。

[学会施設認定]

日本糖尿病学会認定教育施設、日本専門医機構 内分泌代謝・糖尿病内科領域研修施設

内視鏡外科手術トレーニングセンター

2004年12月より、内視鏡外科手術トレーニングセンターを設置し、学内外の外科医を対象に、内視鏡外科手術のトレーニングセミナーを随時開催しています。

ボックストレーニング風景

[運営方針]
内視鏡外科手術における教育・トレーニングは、医療安全水準を向上させるために、きわめて重要です。当センターでは、学内外の外科医を対象に、内視鏡外科手術の基本手技から応用手技までのトレーニングを、系統的なカリキュラムに沿って実施しています。

[業務内容]
初心者・研修医のためのベーシックコース、基本手技の習得を目的としたスタンダードコース、応用手技の習得を目的としたアドバンスコースを行っています。また、これらのコースは九州大学医師再教育事業の一環にもなっています。

[設備]
講義室、ボックストレーニング室(ボックス18台)、VRシミュレータトレーニング室(内視鏡外科手術シミュレータ2台、ロボット外科手術シミュレータ1台)、アニマル手術室(内視鏡外科手術台4台)、技術評価室など

[特色]
大学主導の内視鏡外科手術トレーニング施設としてはわが国最大規模であり、ボックス、シミュレータ、アニマルを用いた多彩なトレーニングカリキュラムは高い評価を得ています。2022年3月時点で、全国各地から2,200名を超える外科医が受講しています。

[教育]
研修医向けのベーシックコースは、研修カリキュラムの一環として内視鏡外科手術の理解を深める上で役立っています。

歯科衛生室

私たち歯科衛生士—Dental Hygienist—は、九州大学病院の患者さんに、より質の高い口腔ケアの普及と安全で信頼される医療の提供を目指しています。

患者さんの口腔ケア

[運営方針]
乳幼児から高齢者までの口腔ケアとセルフケア指導を行い、生活の質(QOL)の向上を目指します。入院患者さんに口腔ケアを行うことによって、口腔衛生改善や口腔機能向上を図り、誤嚥性肺炎などの予防を目指します。

[業務内容]
歯周病科、歯内治療科、小児歯科・スペシャルニーズ歯科、矯正歯科、咬合補綴科、義歯補綴科、口腔総合診療科、高齢者歯科・全身管理歯科、再生歯科・インプラントセンターに分かれ、診療補助、歯科保健指導、歯科予防処置と診療室管理などを行っています。また、病棟で入院患者さんの口腔ケアを行い、他職種を対象に口腔ケアの指導も行っています。そして、2014年4月に開設した周術期口腔ケアセンターでは、医科と歯科が連携し、患者さんの口腔機能管理を行っています。

[特色]
歯科衛生士は、口腔ケアの専門職として口腔疾患予防の促進、改善、普及を行い、患者さんのそれぞれの健康レベルに合わせた、より快適なライフスタイルをサポートします。

MEセンター

MEセンターでは、生命維持管理装置の操作と保守点検を行い、医師や看護師、メディカルスタッフらと共に患者さんの治療をサポートしています。またさまざまなME機器の一元管理を行い、ME 機器の効率運用を図っています。

生命維持管理装置の操作

手術室での診療支援

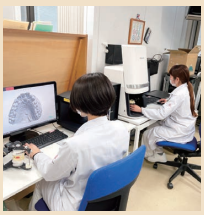
[運営方針]
MEセンターは、令和5年4月現在、28名(うち1名は別府病院)の臨床工学技士が運営を行っています。ME機器の貸し出しや診療支援業務の依頼は365日24時間体制で対応しています。

[業務内容]
臨床技術支援として、人工心肺、人工呼吸器、ECMO装置、血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作と安全管理、また輸液ポンプ、シリンジポンプ、バイタルサインモニターなどの各種ME機器の中央管理を行い、機器の効率的で安全な運用を図っています。

[特色]
臨床工学技士を特定の部門に固定せず、各部門に派遣して業務を行うことでマンパワーの有効利用を図っています。業務範囲はハートセンター、手術部、救命救急センター、集中治療部、腎疾患治療部、光学医療診療部、総合周産期母子医療センターなどの中央診療部門を中心に、各診療科病棟、外来を含め病院全体を対象としています。

歯科技工室

歯科医療チームのなかで補綴装置を製作し、機能や審美性の回復を行い、患者さんの健康と生活の質(QOL)向上に貢献しています。


CADによる設計風景

[運営体制]
5名の歯科技工士が各診療科の歯科医師の依頼を受け、歯科技工業務にあたっています。

[運営方針]
歯科技工室では、安全で質の高い修復治療を行い長期的に安定した結果を得るために、新しい技術や材料の情報を有効に活用し、良質な歯科技工業務サービスを提供しています。

[業務内容]
総義歯、部分床義歯、レジン前装冠、金属冠、ブリッジ、ポーセレン、インプラント上部構造、プロビジョナルレストレーション、オールセラミック、Hotz床、CT撮影用ステント、顎関節症用スプリントなどの製作、修理、加工を中心とした創造的な業務や技工材料の管理を行っています。

[設備]
レーザー溶接機(1台)、ポーセレンファーネス(5台)、マイクロモータ(5台)、実体顕微鏡、ミリングマシーン、真空加圧鋳造機(3台)、技工用タービン、レーズ研磨機、CAD/CAM機器(6台)、3Dプリンター(2台)など

[特色]
歯科技工士が診療室に赴き、患者さんからさまざまで具体的な要望や希望を直接に伺い、補綴装置の製作を行っています。また、2名の「JSOIインプラント専門歯科技工士」を擁し、幅広いインプラント技工に対応しています。

看護キャリアセンター

九州大学病院看護キャリアセンターは、専門職業人としての看護職のキャリア開発や生涯学習を支援し、院内·外を含めた地域全体の看護の質向上に貢献することを目的に活動しています。

シミュレーション研修

[運営体制]
九州大学病院看護部と九州大学医学研究院保健学部門看護学分野が連携·協働し、看護部長をセンター長とし、副センター長2名、看護部教育担当と看護学分野の教員で構成しています。

[運営方針]
センターは、看護職の専門職業人としてのキャリア支援·開発を行うための看護実践教育の拠点としての役割をもち、院内·外を含めた地域全体の看護の質向上に寄与することを目的としています。

[業務内容]
1. 基本的看護実践能力育成に係る教育·研修に関すること
2. 看護実践能力定着·向上に係る教育·研修に関すること
3. 地域貢献·社会貢献としての教育·研修に関すること
4. 臨床看護研究推進に関すること
5. その他、看護職のキャリア支援·開発に関すること

[特色]
多くの人的·物的リソースをもつ九州大学病院が、地域医療を支える看護職への教育プログラムの開発や教育体制を整備し、専門職業人としてのキャリア開発支援を行っています。

歯科総合予診室

歯科部門を受診する初診患者さんに適切な専門診療科を判断し、誘導する受け入れ窓口です。

予診風景

[運営体制]
口腔包括診療科(口腔総合診療科、口腔画像診断科、高齢者歯科·全身管理歯科)の歯科医師が主体となって予診業務を行っています。

[運営方針]
歯科総合予診室では、円滑な歯科診療提供を目的に、歯科部門の初診患者さんを最初に受け入れ、一人ひとりに適切な専門診療科を判断し、誘導しています。

[業務内容]
歯科部門の初診患者受付窓口として、初診患者一人ひとりに適した専門診療科、もしくは集学的診療単位(小児歯科·スペシャルニーズ歯科、矯正歯科、歯内治療科、歯周病科、義歯補綴科、咬合補綴科、顎口腔外科、顔面口腔外科、歯科麻酔科、口腔画像診断科、口腔総合診療科、高齢者歯科·全身管理歯科、周術期口腔ケアセンター、再生歯科·インプラントセンター、デンタル·マキシロフェイシャルセンター)を判断し、適切な専門診療科への誘導を行っています。その後の初診診療は各専門診療科が担当しています。

口腔検査センター

歯科疾患と治療に係る臨床検査を充実化することで 1.一国立大学病院として、歯科各種検査の全国的な標準化に寄与すること 2.より広範な治療の提供による、患者と地域医療機関へ貢献することを目的としています。

センター会議

[運営体制]
口腔検査センター長はじめ、各専門診療科の教員を主な構成メンバーとし、各専門診療科がこれに連携しています。

[運営方針]
歯科部門の各専門診療科で行っている各種歯科検査を、各科連携の下、センターへの依頼に応じて横断的に検査を行っています。

[業務内容]
センターへの予約システムを利用して、依頼された検査を迅速に実施し、検査結果は、臨床研究に展開できるような形で、電子カルテ上に保存します。

[設備]
口腔機能低下症に係る検査体制が整い、新しい検査に対応した機器の充実を進めています。

[特色]
歯科部門の専門診療科が横断的に協力してセンターの運営にあたっていることから、多様性のある研究へと展開できる可能性、そして新たな検査方法の開発などを潜在しており、今後の歯科医療の発展に貢献できると考えています。他機関連携の臨床研究にも着手し、さらに、将来的には、九州大学病院内での運用に留まらず、地域の医療機関とも連携したセンターの利用法を検討しています。

高度新規医療評価部

九州大学病院で初めて実施する高難度な手術や未承認薬などを使用する医療について、医療安全の観点から、審査する部門です。

高度新規医療評価部

[運営方針]
患者さんが安心して高度で先進的な医療を受けることができるように、高難度新規医療技術や未承認新規医薬品などを用いた医療の適正な提供を図ります。

[業務内容]
高度新規医療評価部は、「高難度新規医療技術評価部門」「未承認新規医薬品評価部門」「未承認新規医療機器評価部門」の3つの部門で構成されています。診療科からの高度新規医療提供の申請を受けて、まず諮問委員会である高難度新規医療技術審査委員会または臨床倫理委員会で、倫理的·科学的な妥当性や適切な提供方法について審査を行い、その意見をもとに高度新規医療評価部で提供の適否などについて決定します。また、提供された高度新規医療について医療安全の観点から定期的に確認を行います。

[特色]
高度新規医療評価部は、本院で初めて実施される高難度な新規医療を、公平性と透明性をもって評価し、医療の質の確保と医療安全に寄与するように努めます。専門知識を有する診療情報管理士が配置されています。

診療録管理室

診療録管理室では、電子カルテ、電子カルテ導入前の紙カルテ、電子カルテ導入後にも発生する同意書などの文書を管理しています。

カルテレビュー

[運営方針]

診療録を適切に保管、管理します。また、記録の監査を行い、診療録の精度向上を目指します。

[業務内容]

■診療録の監査業務

診療情報のすべてが記載される診療録は、診療報酬請求の根拠となるため、入院診療計画書や手術記録など診療録に記載すべき内容が適切に記載されているかを監査しています。

■文書の電子化業務、CD／DVD画像の入出力業務

診療で発生する同意書や他院からの診療情報提供書などの紙文書を電子化し、電子データを原本として管理しています。また、他院や本院で撮影された画像を電子カルテへ入出力しています。

■紙カルテの貸出業務

電子カルテ導入以前の外来診療録と入院診療録の貸出を行っています。

■医師事務作業補助者の業務管理

医師の業務負担軽減のため、保険会社診断書などの医療文書作成補助業務、NCD登録など医療の質向上に資するデータ入力補助業務の管理を行っています。

栄養管理部

治療方針に適した食事を提供します。食事と栄養の最新情報を発信し、栄養面から健康と社会復帰を支援します。

患者栄養指導

[運営方針]

患者さんの病状と治療に適した食事を提供し、個々に適したきめ細やかな栄養管理を行います。栄養サポートチーム(NST)、褥瘡、緩和、移植医療、がん治療、糖尿病、摂食嚥下などのチーム医療に参画し、食事と栄養面から患者さんを支援します。

[業務内容]

最新の医学情報に基づく栄養管理を行い、他の医療スタッフと連携しながら良好な栄養状態を支援します。また、栄養指導では、わかりやすく実生活に役立つ実践可能な食事指導を行います。入退院・周術期支援センターでは、入院前からの食事と栄養についてアドバイスを行い、良好な栄養状態で治療が受けられるように支援しています。

[特色]

集団給食施設衛生管理マニュアルの衛生基準に基づき、毎食約900食を提供しています。約170種類の食事を設定し、疾患や病状によって栄養量の変更や食形態の調整を行うことができます。また、食物アレルギーや宗教に伴う禁止食品の除去などに対応した食事を提供しています。

臨床遺伝医療部

患者さんやそのご家族からの遺伝に関する相談の総合窓口として対応します。

スタッフカンファレンス風景

[運営方針]

遺伝に関する不安や悩みに対し、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが相談に応じ、正確な情報提供をします。専用の遺伝カウンセリング室でプライバシーに配慮しながら遺伝カウンセリングを行い、患者さんやご家族が自律的な意思決定ができるようサポートします。

[業務内容]

認定遺伝カウンセラーや臨床遺伝専門医が電話や面談で相談内容を伺います。相談内容に関連した情報収集を行い、スタッフカンファレンスで方針を決定した上で、遺伝カウンセリングを行います。遺伝カウンセリングは必要に応じて継続して行います。

＊生殖医療に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医　在籍

＊遺伝性腫瘍に関する遺伝カウンセリング受け入れ可能な臨床遺伝専門医　在籍

[特色]

臨床各科に所属している臨床遺伝専門医、あるいはその資格取得を目指す医師や、認定遺伝カウンセラーがさまざまな遺伝性疾患や遺伝に関する不安や悩みに対応しています。院内各診療科の診療をサポートするほか、院外からの患者さん・ご家族からの相談にも対応します。診断のための遺伝学的検査、がんゲノム医療において遺伝性腫瘍が疑われた場合の遺伝学的検査・発症前検査、出生前診断・着床前診断など幅広い領域の遺伝カウンセリングが対応可能です。

[学会施設認定]

臨床遺伝専門医認定研修施設(日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会)

患者相談支援室

患者相談支援室では、毎日、患者さんから医療に関する不安・悩みの相談があります。窓口である社会福祉士を中心に、課題を多職種で検討し、関係部署とも連携して、患者さんが安心して療養できるように支援しています。

患者さんへの相談対応

[運営体制]

当支援室は、医師、社会福祉士、医療メディエーター、事務職員で構成されています。毎週、歯科医師や看護師を交えて相談事例について検討しています。また、運営委員会を設け、各診療科から医師や、看護師、社会福祉士など、多職種が選出され、的確に患者支援ができているかを協議しています。

[運営方針]

患者さんからお聞きする不安・ご相談の多くは、医療従事者とのコミュニケーションの不足によるものです。この問題を解決するために、不安を抱えている相談者に寄り添い、医療者との対話が円滑に進むように支援します。必要に応じて院内の委員会でも相談内容とその課題について報告しています。

造血幹細胞移植地域支援センター

造血幹細胞移植地域支援センターは、造血幹細胞移植を受けた、あるいは受ける予定の患者さんやご家族からの相談に加えて、移植患者さんの日常診療に携わる、血液を専門としない地域の先生方からの質問・要望に応えることを主な目的として設立されました。

造血幹細胞移植地域支援センター

移植コーディネート中のスタッフ

[運営方針]

九州大学病院は厚生労働省から、九州ブロックの造血幹細胞移植推進拠点病院（拠点病院）に選定され、2020年度からの新事業でも引続きその任を担うこととなりました。他ブロックの拠点病院や地域拠点病院とも連携を図りながら、 1）人材育成事業　2）コーディネート支援事業　3）地域連携事業　に取り組み、造血幹細胞移植医療の成績向上を目指しています。

[業務体制]

センターの常任スタッフはセンター長1名、血液・腫瘍・心血管内科の医師1名、事務員1名です。さらに小児科医師1名、南棟2階輸血センター医師1名、グローバル感染症センター医師1名、北棟11階無菌治療部看護師長、造血細胞移植コーディネーター1名、患者サービス課長からなる委員会により運営されています。

[業務内容]

①移植コーディネート支援

適切なタイミングで造血幹細胞移植が受けられるよう、ドナー候補者の居住地近くで必要な検査を実施できる病院を紹介する、骨髄バンク九州事務局と連携して骨髄・末梢血幹細胞採取施設の調整を行うなど、ドナーコーディネートが迅速に進むよう取り組んでいます。また認定移植コーディネーターの養成にも移植施設と協力しながら取り組んでいます。

②地域連携事業

拠点病院と厚生労働省、日本造血細胞移植学会が協力して作成した「造血細胞移植患者手帳」を配布し、移植患者さんが地域のかかりつけ医を受診する際に移植情報がわかりやすく伝わることを目指しています。それでも、かかりつけ医の先生方が移植患者さんの診療に不安や疑問を感じた場合には、当センターに相談できるような体制を整備しています。

移植を受けた患者さんやご家族に対しても、転居する際にフォローアップを継続するのに相応しい病院の紹介、症状や生活上の疑問点への回答などが可能です。移植後患者の就労支援にも、がん支援センターと連携して取り組んでいます。現在は全国の拠点病院と連携し、小児→成人のトランジションの体制整備にも尽力しています。

[学会施設認定]

日本造血・免疫細胞療法学会

事務部

事務部では、患者さんの外来受診や入退院受付、医療安全管理や感染予防対策、病院経営や医薬品などの購入・施設設備の維持管理、さらに職員の人事や労務管理など、さまざまな業務を行っています。

入院受付

[総務課]

病院運営に関する業務、職員の人事、臨床教育研修関係や広報関係業務、国際化推進などに関する事務を行っています。

[経営企画課]

適正な病院経営を行うための予算執行管理、経営分析、会計帳票の照査などに関する事務を行っています。

[医療管理課]

医療関係法令に基づく諸手続、医療安全管理、院内感染予防、病院情報システム、診療録管理などに関する事務を行っています。

[研究支援課]

産学官連携、研究・診療活動の倫理審査、臨床研究契約、外部資金の受け入れなどの研究支援に関する事務を行っています。

[経理課]

医薬品や医療装置など物品の購入、建物の維持管理などに関する事務を行っています。

[患者サービス課]

外来受診受付・入院および退院手続き、社会福祉・公費医療などの相談、診療報酬の算定・請求・収納、医療機関との連携に関する業務を行っています。